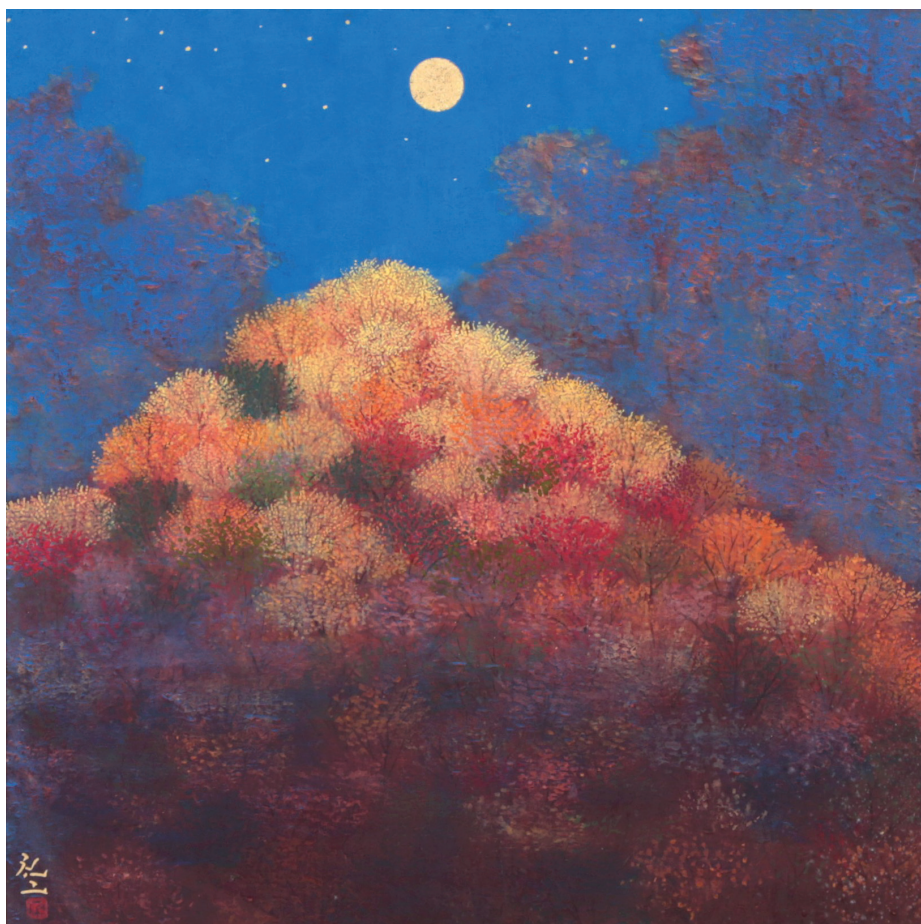


愛知医科大学 学報



秋の彩宴 平松礼二
(中央棟3階平松礼二ギャラリー展示)

＝ 第148号 ＝

2017. 10月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

平成29年度総合防災訓練……………	2
平成30年度予算編成方針……………	3
平成30年度採用事務職員内定式挙行……………	6
平成30年度大学院入試……………	7
ベストティーチャー賞表彰……………	9
平成29年度看護学部キャンドルセレモニー挙行…	11
2017夏休みわくわく病院体験・探検……………	14
Smile ～スマイル～ ……………	24

平成29年度総合防災訓練実施

学校法人愛知医科大学消防計画第69条に基づき、平成29年10月18日（水）に教職員、学生を始め、近隣の医療機関及び長久手市消防本部など関係機関を含む約1,000人の参加協力を得て、平成29年度総合防災訓練を実施しました。

訓練想定としては、午後1時30分に南海トラフ地震でマグニチュード9.0、長久手市で震度6強の地震を観測し、病院機能は一部麻痺しているものの、患者受け入れは可能との想定の下で行われました。

訓練種別としては、全職員を対象とした本部共通訓練と個別訓練参加者を対象とした部門個別訓練に区分けし、実施されました。本部共通訓練では、各部署から職員参集状況報告書、被害状況報告書、入院患者状況報告書等の提出及び安否確認を行いました。安否確認については、今年から職員に加え学生も利用することができるようになり、すそ野も広がり、より充実したものとなりました。

医学部、看護学部災害対策室の個別訓練では、例年の避難誘導訓練及び災害に係る講演に加え、新たに大学本館前に設置されたスモークマシンでの煙体験を通して、楽しみながらも有意義な訓練を実施しました。

法人本部災害対策室では、病棟ではエア担架を実際に使用した患者搬送訓練や消火器を使った初期消火訓練を実施しました。

病院災害対策室では、バスロータリーが完成したこともあり、病院正面玄関前でのトリアージを主体とした実働訓練を行いました。また、電気自動車やホワイトボード（電子黒板）など企業からの協賛もあり、例年以上の盛り上がりを見せました。

訓練を締めくくる検証会では、多くの本部員から様々なご意見が挙げられ、新たな課題が見つかりました。こうした課題を一つひとつ解決し、いざという時に本当に役に立つ実践的な訓練を目指し、これからも一層努力して参ります。



災害対策本部



病院対策本部



防災訓練の様子

平成30年度予算編成方針

本学が平成18年度以降推進してきたところの新病院を中心としたインフラ整備は、平成29年度をもっていよいよ完成し、まさしく発展に向けた舞台は整います。整備の進捗とともに役者は揃い、その成果の一つとして外来患者数の増加は全国の注目を集めるに至っています。しかしながら舞台裏には、医学教育分野別評価の受審、研究活動の活性化、情報セキュリティ対策、関連病院の整備、地域がん診療連携拠点病院の指定、寄付文化の醸成等台本を書き上げねばならない重要な事項が山積しています。また、インフラ整備には福祉医療機構等からの借入金を活用しており、長期・低利の良質な資金ではありますが、元利合わせて相当額の償還が当分続くことを忘れてはなりません。加えて国政レベルでは教育、医療それぞれの改革が推進されており、本学を取り巻く環境はより厳しくなるものと懸念されます。

こうした中、平成30年度は診療報酬・介護報酬の同時改定、第7次医療計画、介護保険制度改正、新専門医制度など医療・介護に関する様々な制度改革が押し寄せてきます。国の平成30年度予算編成に向けた動向を展望すると、目玉政策として人材投資を掲げ、大学改革や教育支援に予算を重点配分する一方、高齢化等に伴う社会保障費の自然増を6,300億円と見込みながら、予算措置は5,000億円の範囲に止めるとしています。これには約1,300億円の圧縮が必要となりますが、圧縮額の大半は、診療・介護報酬の改定で対応するものと取りざたされています。本学歳入に大きなウエートを占める医療収入が国の制度改革の影響を強く受ける仕組みとなっていることから、こうした動きに迅速かつ最適な対応が求められるところです。

本学が先を見据えた持続可能な運営を行っていくためには、国の動向を注視しつつ目下の課題を解決し、手を緩めることなく本学の財政力強化を推進していく必要があります。

平成28年度決算を踏まえ、事業報告書に当面の課題として掲げた主な項目は以下のとおりです。

<教育>

- ・大学ガバナンス改革として、「医学部における学科目・講座制の見直し」及び「大学院組織の見直し」の検討
- ・平成32年度に受審を予定している公益財団法人大学基準協会による大学評価について、「内部質保証システムの有効性に着目した評価」に対応できるよう、内部質保証システムの構築に向けた検討
- ・本学の医学教育を改革し、更なる質的転換・向上を図るため、世界医学教育連盟（WFME）の基準（グローバルスタンダード）による認証
- ・文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」のタイプ1「教育の質的転換」に係る支援の獲得

- ・平成31年度に日本医学教育評価機構（JACME）の国際基準による評価受審への準備
- ・医学教育改革の更なる推進
- ・医師国家試験対策の強化及び優秀な学生獲得に向けた入試制度の見直し
- ・国際交流の推進

<研究>

- ・研究面では、科学研究費助成事業を始めとした競争的研究資金の獲得を推進するため、研究支援体制を見直し、研究シーズを育成し、研究費の応募・採択へつなげていく仕組みを構築
- ・研究機関としての機能向上を図るため、研究創出支援センターにおいてバイオバンクの整備・運用及び若手研究者の育成支援を始めとした実効的な取組を充実
- ・研究成果を社会へ積極的に発信していくため、研究データベースの作成、研究論文作成・投稿の支援を実施

<診療>

- ・大学病院としての高度な医療の提供及び救急医療体制の充実の実現のための四つのアクションプラン（「質の高いがん医療の充実」、「地域医療連携の強化」、「救急患者受け入れ体制の強化」、「手術室・GICU運用の強化」）の実行
- ・地域医療連携を強化し、関連病院の充実、退院支援の促進を図り、救急車や紹介医療機関から入院患者を受け入れる
- ・平成31年度の電子カルテの更新時期に向け、十分な準備期間を設け、低コストで効率の良い更新計画の策定

平成30年度の本学を取り巻く環境は、厳しさを増すばかりですが、やるべき課題は、明確となっており、「彼を知り己を知れば百戦殆うからず」の故事からも、本学の未来は開けるはずで、本学に新しく制定された学是「具眼考究」の具体的実践として、平成30年度予算を編成することとします。

わくわく体験リニモツアーズ 「“コードブルー”の世界 救急医療について学び、 考えてみよう！」開催

東部丘陵線（リニモ）の沿線施設の魅力を満喫し、学び楽しむイベント「わくわく体験リニモツアーズ2017」（東部丘陵線推進協議会主催）が、近隣に住む小学生を対象に開催されました。

本学においても、平成29年8月4日（金）、10日（木）の2日間で「“コードブルー”の世界 救急医療について学び、考えてみよう！」と題した体験講座を開催し、多くの児童及びご父兄にご参加頂きました。

体験講座では、ドクターヘリの見学会、ドクターヘリに関する講演会、質疑応答が行われましたが、幸いにも全日程でドクターヘリの見学会が実施することができ、参加者は機体の迫力を間近で感じていました。

講演会では、本院救命救急科のフライトドクター及びフライトナースによる講演がクイズ形式で行われ、ドクターヘリを始め、フライトドクターやナースの仕事について説明があり、参加者は皆、普段聞けない医療現場の話やドクターヘリの話について熱心に耳を傾けていました。

最後には、参加者全員にドクターヘリ（本学オリジナル）の特製ピンバッジが配布され、体験講座は盛況のうちに終了しました。



ドクターヘリ見学会



講演会

学長招聘講演会開催 上松東宏先生

平成29年9月20日（水）午後6時から大学本館202講義室において、本学医学部卒業生（平成18年）で、現在は亀田ファミリークリニック館山・家庭医診療科医長の上松東宏先生を講師にお招きし、「夢を抱いて学生生活を送ろうー海外留学の経験を語る」と題し、学長招聘講演会が開催されました。

上松先生は、平成17年度に米国南イリノイ大学医学部との大学交流プログラムの1期生として、現地で2か月間のclinical clerkshipを行いました。本学を卒業後は、日本での臨床研修を経て、平成23年から平成26年まで南イリノイ大学家庭医療科レジデントとして活躍され、本学から留学プログラムで派遣した学生を現地でサポートして頂きました。

講演では、ご自身の経験を基に、海外で働くことのやりがいや日米での医療現場の違い、海外で働くことの難しさなどについて写真を交えながら分かりやすくお話を頂きました。

講演後の質疑応答では、これから海外留学を目指す学生から「英語力を鍛える良い方法を教えてほしい。」「海外で働くために必要なものはなにか。」「モチベーションを維持するコツは。」などの質問が寄せられ、基本的な英語力とはもとより、ノンバーバルコミュニケーション能力を高めることも大切であると説明されました。

講演会には、数多くの学生や教職員の参加があり、参加者は熱心に聞き入っていました。



講演する上松先生



学生や関係部署の職員が多く参加しました

講演会終了後には、立石プラザにおいて上松先生を囲んで、学生を中心とした懇親会が和やかに開催されました。貴重なご講演ありがとうございました。

科学研究費助成事業応募方法等説明会開催

平成29年9月14日（木）・15日（金）の2日間、大学本館203講義室において、科学研究費助成事業応募予定者を対象とした平成30年度科学研究費助成事業（科研費）応募方法等説明会が開催され、98名の参加がありました。

【写真】

この説明会は、本学における研究者の支援を行い、科研費の申請・採択件数を増加させ、併せて科研費制度への理解を深めることを目的として開催されたもので、今年度は初めての試みとして、9月14日の説明会に独立行政法人日本学術振興会研究事業部研究助成企画課長代理の今野久乃氏をお招きし、科研費の最近の動向等を説明して頂きました。

また、説明会では、研究創出支援センターの吉川和宏特務教授から、申請書作成のコツなど有益な情報の講義も行われ、併せて研究支援課の佐合範彦主事からも、科研費の申請方法や事務的な注意点について説明がありました。



説明会終了後には、出席した研究者から応募等に関する多くの質問・相談が寄せられるなど、大変意義あるものとなりました。

本学では、今後も研究活動の一層の活性化と科研費を始めとする競争的資金の獲得を推進していきます。

科学研究費助成事業執行方法等説明会開催

平成29年9月28日（木）・29日（金）の2日間、大学本館205講義室において、科学研究費助成事業（科学研究費補助金、学術研究助成基金助成金）の執行方法等説明会が開催され、75名の参加がありました。

この学内説明会は、今年度に科研費の補助事業者となっている研究代表者及び研究分担者を対象に、採択された科研費の制度に関する理解の向上と適正な執行を確保し、不正防止等の徹底を図ることを目的に毎年開催しているものです。

説明会では、研究支援課の佐合範彦主事から、年間の

スケジュール、補助金制度と基金制度の相違点、ルール改正、学内執行ルール及び補助事業遂行に当たっての留意点等について説明がありました。また、最近の研究費不正使用に関する事例も紹介され、出席者に対して不正使用防止に向けた注意喚起がありました。

説明会終了後には、研究代表者及び研究分担者から、制度の内容や執行の方法等についての確認や相談があるなど、科研費の適正な執行と管理に向けて意義のある説明会になりました。

科学研究費助成事業獲得支援セミナー開催

平成29年10月4日（水）大学本館305講義室において、科学研究費助成事業応募予定者を対象とした科研費（科学研究費助成事業）獲得支援セミナー「科研費－採択されるために－」が開催され、21名の参加がありました。

セミナーでは、今年出版された「科研費 採択される3要素 第2版」（医学書院・郡健二郎著）の刊行記念セ

ミナーへ出席した研究創出支援センターの鈴木進准教授から、科研費制度改正における申請書作成上の注意点、対応策などの有益な情報について講演がありました。

講演終了後には研究者から応募等に関する多くの質問・相談が寄せられるなど、大変意義あるセミナーとなりました。

平成30年度採用事務職員内定式挙行

平成29年10月2日（月）午後3時から大学本館701会議室において、平成30年度採用事務職員内定式が挙行されました。

式では、内定者8名に内定証書が授与された後、島田孝一法人本部長から「本学は中央棟建設後もキャンパスの再整備を続けていますが、本年度末には完成します。皆さんは新しい時代への飛躍の舞台が全部揃ったところで、活躍の大きなチャンスに入ってこれられるということです。瞳の輝きを増した皆さんを、ピカピカのキャンパスでお迎えをしたいと心より願っております。」とあいさつがありました。

続いて、内定者を代表して金森慶祐さんから「一日でも早く仕事を身に着け、愛知医科大学の力になれるよう精進していく所存です。至らぬ点も多く、お叱りを受けることもあると思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしく



内定者と記念撮影

お願いします。」と答辞が述べられ、午後3時45分ごろ式は終了しました。

災害に関する特別講演会開催

平成29年10月19日（木）午後5時30分から大学本館301講義室において、災害に関する特別講演会が開催されました。【写真】

講演会では「愛知医科大学の地震災害対策について－熊本地震からの復旧を顧みて－」と題して、熊本県に工場がある中央可鍛工業株式会社取締役で熊本工場長製造部担当の山本徹氏を講師にお招きし、講演して頂きました。

今回の講演では、平成28年4月に起こった熊本地震で被災された経験を基に、設備類の固定状況や職員の安否確認の方法、インフラの回復状況等についてお話し頂きました。工場と病院では被災時の状況は異なるように思われますが、大きな設備や移動しやすいようキャスターがついた備品類等の建物内に設置されている物はどちらも共通するものがあり、大学・病院が被災したらどのよう



になるかがイメージしやすい貴重な講演になりました。

また、大学では講演会の前日に総合防災訓練が実施されており、大学・病院の職員にとって、防災に対する危機意識を高める2日間になりました。

平成29年度愛知医科大学公開講座終了

平成29年9月2日（土）・9日（土）・16日（土）・23日（土・祝）の計4回にわたり開催された平成29年度愛知医科大学公開講座が終了しました。

今年度の公開講座は、身近な病気の予防法や治療方法などについて学んで頂くため「〇〇と診断されたら」というテーマで開催し、開催期間中は、近隣住民の方を始め、4日間で延べ729名の方々にご参加頂きました。

また、4日間全てに出席頂いた103名の方々には、最終日となる23日の講座終了後の閉講式において、それぞれ修了証書が授与されました。

本学では、今後も地域の方々の生活に役立つ公開講座を企画・運営していきますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

馬場昌子名誉教授御逝去



平成29年10月2日（月）に馬場昌子名誉教授（成人看護学）がご逝去されました。享年87歳でした。

馬場先生は、昭和28年に聖路加女子専門学校を卒業され、聖路加国際病院勤務を経て、東京大学医学部衛生看護学科へ助手として就

任されました。その後、フルブライト奨学生としてフロリダ州立大学へ留学し、名古屋聖霊短期大学講師、愛知県立看護短期大学教授を歴任し、平成9年に同短期大学より名誉教授職を授与されました。平成10年に愛知医科大学参与として着任し、看護学部設置準備室長として、看護学部設置に尽力され、平成12年4月の看護学部開設時から成人看護学の教授として、創設間もない学部及び成人看護学領域の礎を築かれました。

研究分野においては、長年にわたりターミナルケア、死生学の教育、研究に努められ、日本のターミナルケアの普及と質の向上に貢献されました。病院や職域を超えて患者理解の教育にも貢献され、国内のみならず海外にも、多くの人材を輩出され、大学や病院等での講義や講演を通して、後進の育成にも努められました。

社会活動としては、医療従事者及び一般市民に呼びかけホスピス（緩和ケア）施設の開設やボランティアの育成に貢献され、この功績から平成2年に愛知県知事賞を受賞されました。

馬場先生の看護への探求精神は常に変わることなく、人生をかけて看護を探求するという喜びを私たちに教えてくれました。

馬場先生のご冥福をお祈りするとともに、ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成30年度大学院医学研究科入学試験 第67回論文博士外国語試験実施

平成29年10月6日（金）大学本館711特別講義室において、大学院医学研究科入学試験及び第67回論文博士外国語試験が行われました。合格者数は、大学院医学研究科入学試験が11名、論文博士外国語試験が1名となり、入学定員に満たないことから第2次募集を予定しています。

これまで社会人入学制度や学納金免除制度の拡充など

を行い、大学院教育を受けやすい環境を整えてきましたので、研究意欲の高い方が多数応募されることを期待しています。

大学院医学研究科入学試験（第2次募集）及び第68回論文博士外国語試験は、平成30年2月9日（金）に実施予定です。

平成30年度大学院看護学研究科入学試験実施

平成29年9月6日（水）大学院看護学研究科入学試験が行われました。合格者数は、修士論文コースが6名、高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コースが1名、高度実践看護師（診療看護師）コースが2名となり、入学定員に満たないことから第2次募集を予定しています。

本研究科では、これまで医療等の現場で活躍されている方々が、退職したり休職したりすることなく学べるよ

う、平日の夜間や土曜日などにも講義、研究指導等を行っています。更に、勤務や育児などの事情により標準修業年限での履修が困難な学生を対象とした「長期履修制度」を導入し、社会人がより学びやすい教育環境を整えています。（高度実践看護師[診療看護師]コースを除く。）

大学院看護学研究科入学試験（第2次募集）は、平成30年2月8日（木）に実施予定です。

医学教育モデル・コア・カリキュラム説明会開催 医学教育の今 — コアカリキュラムと選択カリキュラム

平成29年6月16日（金）と22日（木）の2日間、大学本館講義室において、医学教育モデル・コア・カリキュラム（平成28年度改訂版）説明会が医学部教員を対象に開催されました。

講師を務めた医学教育センターの伴信太郎特命教授からは、大きな変革期を迎えている日本の医学教育について解説があり、中でも平成13年3月に導入された「医学教育モデル・コア・カリキュラム（モデルコアカリ）」が最も大きな変革の一つであると強調されました。この制度は、日本全国の医学部ではほぼ同じような学習目標を共有していた時代から、医学部のカリキュラムの2/3は全ての医学部で同じ学習目標を共有し、残りの1/3はそれぞれの医学部が独自の学習目標を設定しても良いというもので、この共通目標部分が「モデルコアカリ」と呼ばれています。これまでには、平成19年12月、平成23年3月の改訂を経て、平成28年3月に3回目の改訂が行われており、本学においても、モデルコアカリの部分に、できるだけアクティブ・ラーニングを取り入れるとともに、学生のニーズや興味に応じた多様な選択カリキュラ



解説する伴特命教授

ムの導入に向けた取り組みについて話しがありました。最後に、伴特命教授から「選択カリキュラムで学生の学習意欲を引き出し、建学の精神にある『人間形成』及び『創造性』を図るべくカリキュラムを編成しています。」との説明がありました。

平成29年度医学部解剖慰霊祭挙行

平成29年10月27日（金）覚王山日泰寺において、平成29年度の医学部解剖慰霊祭が、本学から医学部長及び解剖学講座並びに病理学講座を始めとする関係教職員約30名、医学部の2学生次生113名が参列する中、350名余りのご遺族をお迎えして厳かに執り行われました。

今年度の慰霊祭では、平成28年10月からの1年間に系統解剖と病理解剖にご遺体を供せられた68柱の御霊を新たに合祀し、総数5,000柱の御霊に対し、法要が営まれました。

午後2時、導師の入堂により祭儀が始まり、岡田尚志郎医学部長と北村直哉不老会理事長の慰霊の辞、続いて、学生代表として医学部3学年次生の平井愛子さんが「ご献体と対面する度に死の重みを受け止めると同時に、生命への畏怖の念を感じ、医師としてのあるべき姿を考える機会となりました。解剖学実習とは、人体の構造を学ぶためのものだけでなく、人の命に携わる医療者としての倫理感を育む機会でもあったと感じています。『医師を志すということは、未来を託す故人の想いを担い、今を生きる人のために、真摯に命と向き合う使命を背負うことである。』私たちは、ご献体から命と関わる仕事に就く者としての心構えまでもご教授頂いたように思います。故人のご意志の下、ご献体にご理解を賜りましたご遺族の方々、不老会の皆さま方に対し、深く感謝申し上げますとともに、改めて、ご献体くださった御霊のご冥福をお祈り申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。」と礼辞を述べ、御霊に深い感謝と尊崇の念を捧げました。

この後、広い本堂に僧侶の読経が響きわたる中、岡田医学部長、解剖学講座を代表して内藤宗和教授、病理学講座を代表して笠井謙次教授がそれぞれ焼香し、続いて



黙とうを捧げる学生たち

学生代表として医学部3学年次生の花林卓哉さんが、その後、参列者一人ひとりが焼香して献体者のご冥福を祈りました。

午後3時、岡田医学部長の参列者に対する謝辞をもってつつがなく慰霊祭が終了し、参列者は、学生が見送る中を帰路につきました。

ベストティーチャー賞表彰

本学では、平成29年度から新たにベストティーチャー賞制度を導入しました。これは、学生を対象に授業評価アンケートを実施し、教育方法や教育内容等が高く評価された教員をベストティーチャーとして表彰するものです。

第1回目となる今回は、大学院及び学部合わせて8名の先生方がベストティーチャーに選出され、佐藤啓二学長からそれぞれ表彰状が授与され、称揚と更なる期待の言葉を掛けられました。

今後も授業改善に向けた取り組みの一環として、評価の高い教員を顕彰し、学生の教育の意欲向上と大学教育の活性化を図ります。

ベストティーチャーを受賞した教員は、次のとおりです。

大学院医学研究科

菊地 正悟教授（公衆衛生学）

医学部

中野 隆教授（解剖学講座）

岡田尚志郎教授（薬理学講座）

三嶋 廣繁教授（感染症科）

大学院看護学研究科

講義・演習部門

多喜田恵子教授（精神看護学領域）

八島 妙子教授（老年看護学領域）

看護学部

講義・演習部門

篠田かおる准教授（基礎看護学領域Ⅱ）

実習部門

白鳥さつき教授（基礎看護学領域Ⅰ）



授与式での記念撮影
(中野教授, 岡田教授, 佐藤学長, 三嶋教授, 菊地教授)



授与式での記念撮影
(多喜田教授, 八島教授, 佐藤学長, 白鳥教授, 篠田准教授)

平成29年度第1回・第2回大学院医学研究科FD特別講義開催

平成29年9月22日（金）・10月24日（火）に医学研究科FDとして、特別講義が開催されました。

第1回目は、広島大学大学院整形外科の安達伸生教授を講師にお迎えし、「運動器に対する再生医療」というテーマで講演して頂きました。

第2回目は、仁邦法律事務所の桑原博道所長を講師にお迎えし、「医療裁判事例から医学教育・組織マネジメ

ントを学ぶ」というテーマで講演して頂きました。

当日は、大学院医学研究科の多くの担当教員が参加し、今後の研究・教育の質の向上につながるものとなりました。

医学研究科では、引き続きFDの講義を開催し、更に授業内容・方法を改善し向上させて参ります。

国際交流



ドイツルール大学医学部教員来学

本学医学部では、平成23年度にドイツルール大学医学部と学術国際交流協定を締結し、相互に学生等の派遣・受け入れを行い、本学の学生は4週間の臨床実習に参加しています。

この度、平成29年9月28日（木）ルール大学医学部からJosune Guzman先生（ルール大学医学部総合実験病理学講座・教授）及びUlrich Costabel先生（エッセン大学医学部ルールランドクリニック呼吸器アレルギー学講座・教授）が来学され、今後の親交を深め相互理解のため、本学教員との交流が行われました。【写真】

来学時には、理事長及び医学部長への表敬訪問や関係教員との昼食懇談会、学内の施設見学を行いました。初顔合わせながら良い友好関係を築くことができ、今後の相互の親睦と発展を確信できる良い機会となりました。

また、本学の学生に対しては、Josune Guzman先生からルール大学医学部紹介の講演が行われました。この講演により、同校の教育や医療システム等を知ることができ、海外留学や海外の医療に興味がある学生にとって



は、大変有益な時間となりました。

今後は更に国際交流を充実させ、本学学生が多様な異文化に触れる機会を設ける取り組みを積極的に行っていく予定です。

※エッセン大学医学部ルールランドクリニックは、ルール大学医学部との学術国際交流協定締結に基づき、同大学の本プログラム担当教員であるJosune Guzman先生の斡旋により、本学学生の研修先となります。



アメリカ南イリノイ大学医学部教員来学

本学医学部では、平成17年3月からSIU（南イリノイ大学）との学術国際交流を行っており、SIU教員の招聘や相互に学生の派遣・受け入れを行っています。

例年本学からは、5学年次生を対象とした臨床実習に参加するコース、3・4学年次生を対象としたSIU 2年生カリキュラムを受講するコースの二つのコースへ学生を派遣しています。平成29年10月10日（火）・11日（水）の2日間にわたり、この学生の受入れに多大なご協力を頂いているSIUのJerry E. Kruse医学部長及びDebra L. Klamen副医学部長（教育・カリキュラム担当）が来学され、本学の視察や学生・教員との交流を行いました。【写真】

今回の来学では、理事長、学長、医学部長への表敬訪問や来学された先生方による医学部の社会的責任と学習者の臨床的判断の測定について講演が行われました。SIUでは、先駆的な教育カリキュラムの開発と充実した医学教育システムの整備を重点的に行っており、この講演では、これらに関する知識や理解を深めるよい機会となりました。

また、SIUへ派遣予定である5学年次生に対するケースプレゼンテーションの指導だけでなく、3・4学年次生に対しても、SIUで行われているPBL（問題立脚型学習）や医療英語の指導をして頂きました。指導後には、派遣学生との懇談会も行われ、学生にとっては、指導を



受けた際の緊張感から解放され、積極的に先生方とコミュニケーションを図り、親睦を深めることができました。また、派遣に向けての新たな学習課題を形成できる良い機会となり、モチベーション向上へと繋がったようです。このように、例年のSIU教員の来学は、両大学の相互交流の更なる発展に大いに役立っています。

医学部では、今後も引き続き学術国際交流協定校等の開拓に努め、更に多くの学生に海外留学へのチャンスを与えると同時に、海外大学の学生の受入れを通して、学生が国際的な視野を広げる一助になるよう一層努力していきます。



看護学部

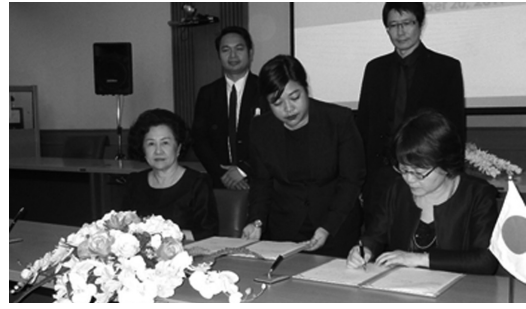
タイ王国マハサラカム大学との学術交流と協力に関する覚書締結

平成29年10月20日（金）タイ王国マハサラカム大学において、同大学看護学部と本学看護学部との間で学術交流と協力に関する覚書が締結されました。

調印式には、マハサラカム大学からChatchanayuenyong 副学長、Rujkorakarn看護学部長を始め17名が、本学からは白鳥さつき看護学部長、夢喜田恵子教務学生部長、近藤真治学術国際交流委員会委員長、出原弥和学術国際交流委員会委員が出席しました。

式典では、マハサラカム大学副学長によるウェルカムスピーチの後、白鳥看護学部長があいさつを行い、覚書調印、記念品交換に続いて、近藤学術国際交流委員会委員長が本学看護学部についてのプレゼンテーションを行いました。

式典後には意見交換の場が持たれ、次年度からの学生の交換留学に向けた準備や両大学の看護学教育を発展させる方策についての話し合いが行われました。



両学部長による覚書への署名



覚書締結後の記念撮影



式典後の意見交換



コンケン市内の精神科病院での交流会

平成29年度看護学部キャンドルセレモニー挙行

平成29年10月14日（土）午前9時30分から大学本館たちばなホールにおいて、平成29年度看護学部キャンドルセレモニーが挙行されました。【写真】

初めに、佐藤啓二学長から「皆さんの手が果たす限らない役割を自覚して頂き、病める人の支えとなる看護職を目指して羽ばたいて頂きたいと思います。」との式辞が述べられました。

続いて、白鳥さつき看護学部長からのメッセージの後、学生一人ひとりが学部長から手渡された燭台に、ナイチンゲール像から灯火を受け継ぎ、105名全員で「誓いの言葉」を述べ、愛知医科大学看護の歌「愛の使命」を合唱し、厳粛な雰囲気の中、セレモニーは無事終了しました。

このキャンドルセレモニーは、ナイチンゲールの精神を受け継ぎ、看護職者となるための決意を新たにす場として2学年次生の実行委員が中心となって企画し、学



生たちが一致団結して運営しているものです。これを機に、これから本格的に始まる看護学の修得に一層力を注ぎ、高度な知識・技術を兼ね備えた心豊かな看護職者になることが期待されます。

高大連携

長久手高校体験入学に看護学部教員と学生を派遣

平成29年8月18日（金）愛知県立長久手高等学校において、来春入学予定の中学生を対象に「長久手高校体験入学」が開催されました。【写真】

同校は、平成30年度以降「医療・看護コース」の設置を予定しており、本学を始め県内の各大学との高大連携を進めています。

当日は、看護学部の教員2名（茅喜田恵子教授、出原弥和准教授）と同校の卒業生である看護学部学生2名（篠原悠さん、山本愛果さん）を派遣し、本学で行われている看護教育の一部を紹介しました。実際に血圧測定などを行い、参加した中学生は興味深そうに学生の手技を見学していました。



本学は、同校の「医療・看護コース」の設置に伴い、今後も人材の派遣等を行う予定です。

平成29年度看護学部・看護学研究科科研費獲得セミナー開催

本学では、競争的資金である科学研究費助成事業の応募を積極的に促進しており、その一環として、看護学部では、平成29年8月2日（水）科学研究費獲得セミナーが開催され、35名の教員が参加しました。

セミナーでは、「科学研究費獲得に関するノウハウ」のテーマで、看護学部の山本弘江准教授（母性看護学）及び白井裕子講師（在宅看護学）が体験談に基づいて講演されました。

山本准教授は、自身の申請経緯に基づき、研究課題、研究目的、研究計画等の重要性について説明され、採択されるまでやり続けることが重要であり、審査結果を活

かすことや研究に関する仲間を持つことが大切であると述べられました。

白井講師は、科研費の申請に当たり、申請書を分かりやすく記載すること、サポートしてくれる上司や同僚を持つこと、研究に情熱を持つこと等について、分かりやすく説明されました。

また、審査制度と申請支援については、研究支援課の佐合範彦主事から審査分野の区分の変更点、審査方式の変更点、今後の公募スケジュール等、科研費獲得のポイントについて説明がありました。

平成29年度第1回・第2回大学院看護学研究科特別講義開催

平成29年9月2日（土）・10月5日（木）に看護学研究科特別講義が開催されました。

第1回目は、杏林大学医学部附属病院看護部長の道又元裕先生を講師にお招きし、「EBP（Evidence based practice）に基づいた看護実践」というテーマで講演して頂きました。

講演では、科学的根拠に基づいた看護実践について、「呼吸回数を観察しているか?」、「クーリングは効果があるのか?」等の日常の看護実践の疑問点や事例などを紹介しながら、エビデンスをどのように看護実践に活用することができるのか具体的に説明頂きました。また、看護ケアにおいては、実験的に証明されたエビデンスは少ないのが現状であり、最良のエビデンスを選択するには、看護の専門家としての知識と判断力、モラルが大切であること、まずは日常の看護実践に疑問を持ち、学習する文化の形成が重要であると強調されました。

第2回目は、桜美林大学老年学総合研究所長の鈴木隆雄先生を講師にお招きし、「高齢者の定義と科学的根拠

に基づく健康増進」というテーマで講演して頂きました。

講演では、日本の高齢者の健康水準を過去の高齢者の集団に比し、著しく向上していることを身体機能の比較から証明されました。更に、高齢者の健康は前期高齢者と後期高齢者、男性と女性の四つのセルで考える必要があり、75歳以上の後期高齢者では心身の機能の減退は不可避であると説明がありました。そして、後期高齢者の介護予防に関する内容に発展し、たんぱく質とビタミンDの不足に注意が必要なことや運動の必要性を科学的根拠に基づいて説かれました。認知症予防に関しては、二次予防が可能であるMCI（mild cognitive impairment; 軽度認知機能障害）への介入についても触れられ、これらの健康維持活動にはヘルスリテラシーが大きく関わっていることも示されました。

大学院生に向けて、研究的なものの見方や手法などの知識も含めてお話し頂きました。

特別講義には、学内・学外から多くの方々にご参加を頂き、大変有意義な時間になりました。

平成29年度医大祭“(R)evolution”

平成29年度（第44回）の医大祭のテーマは「(R)evolution」です。これは、Revolution（革命）とevolution（進化）をかけた造語で、革命的な企画を新たに考え、学生が中心となり、自らが楽しめるような医大祭を作り、医大祭を通じて関わった全ての学生が進化できるような内容の濃いものにしていきたいとの思いで頑張っています。

平成29年11月4日（土）と11月5日（日）に行われる主なイベントは次のとおりです。

【主なイベント紹介】

☆2日間開催イベント

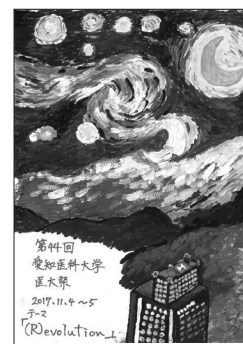
- ・模擬病院の実施
血圧測定、メタボリック健診、肌年齢測定等
- ・病院イベント（コンサート、マジック等）
- ・看護企画（ちびっこ看護師体験、こどもの部屋）
- ・模擬店（15店舗）HIAMU企画
フェアトレード途上国の生活環境等の問題揭示とチャリティーグッズ販売、小児イベント、子供に楽しんでもらえる魚釣りゲーム、型抜き、クイズ

11月4日（土）のイベント

- ・メディカルプロレス&全日本プロレス
- ・学生運動会

11月5日（日）のイベント

- ・リサイクルマーケット（75ブース）
- ・防災・減災セミナー
- ・講演会 笑福亭鶴瓶と学生とのトーク
- ・献血、骨髄バンクドナー登録及び啓蒙活動
- ・学生運動会



秋の交通安全講習会開催

平成29年10月23日（月）午後5時40分から大学本館204講義室において、医学部・看護学部の学生を対象とし、名東警察署交通課長の永田弘警部を講師に迎え、交通安全講習会を実施し、80名余りの学生が参加しました。【写真】

講師からは、車間距離の確認方法や、交通違反の点数制度等についての説明があり、また、交通事故は、当事者だけではなく、多くの人の人生を変えてしまう恐ろしさを持っている旨の講和があり、受講した学生は皆真剣に聞き入っていました。また、「事故を起こさないための運転行動～ドライブレコーダー映像から考える～」と題したDVDを鑑賞しました。このDVDは、ドライブレコーダーの映像を事例に挙げ、起こりうる事故の危険を予測、回避するための対応等の内容でした。

年2回、春と秋に実施している交通安全講習会を通



じ、学生一人ひとりが交通安全に努めてくれることを期待します。

学生特別表彰

医学部4学年次生の高橋周治さんは、第100回日本陸上競技選手権大会・男子100m（平成28年6月24日～26日開催・パロマ瑞穂スタジアム）並びに第101回日本陸上競技選手権大会男子100m（平成29年6月23日～25日開催・ヤンマースタジアム長居）において、2大会連続で7位入賞を果たすという快挙を遂げました。

他の学生の模範となるこの成績を評し、平成29年8月7日（月）理事長室において、佐藤啓二学長から表彰状が、三宅養三理事長から目録がそれぞれ贈呈されました。今後も、文武両面で表彰される学生が続くことを期待します。



記念撮影

2017夏休みわくわく病院体験・探検イベント開催

平成29年8月6日(日)本学職員及び医学部同窓会員、登録医のお子さん(小学校4年生～中学校1年生)を対象に、夏休みを利用した病院イベント「2017夏休みわくわく病院体験・探検」が開催されました。【写真】

今回は、愛知医科大学医師会、同窓会との共催で開催され、体験型のイベントを通して、医療への関心を持って頂くとともに、親の職場を見てもらうことを目的としています。

イベントは、本院中央棟1階及び地下1階、シミュレーションセンターとドクターヘリ駐機場において開催されました。参加した子どもたちは、ドクターヘリの見学(探検)を始め、AED体験、CT・MRI・透視検査体験、調剤体験などの盛りだくさんのコースを体験しました。

当日は、49家族128名(お子さん68名)の方にご参加頂き、楽しいひと時を過ごすことができました。参加者からは、「病院を知る良い機会になった。」、「クイズ等もあり、楽しく学べた。」、「夏休みの自由研究に使います。」、「ドクターヘリの機体内に乗ってみたかった。」などの貴重なご意見や感想が寄せられました。

本院では、今後も様々なイベントを企画していく予定です。



東海テレビ主催「こどもまつり2017」へブース出展

平成29年9月9日(土)・10日(日)の2日間にわたり、吹上ホールにおいて東海テレビ主催「こどもまつり2017」が開催され、本院はメディカルクリニックと共同で、体験コーナー「認定王国」にブース出展をしました。【写真】

「こどもまつり2017」は子どもが主役のイベントで、当日は、タレントも参加して歌やダンスのコンテストや体験コーナー・ゆるキャラコーナーでのイベント等が賑やかに行われました。

本院の出展ブースでは、「ディスポの手術着を着て内視鏡手術の模擬体験」と「白衣を着て聴診器で心音を聞く体験・記念撮影」の二つのイベントを開催しました。両日とも大盛況となり、2日間で延べ1,511名のお子さんに体験して頂きました。本院及びメディカルクリニックから医師、看護師を始め、11名のスタッフが参加し、東海テレビ関係のスタッフと協力してイベントの運営に当たりました。

当日の様子は、東海テレビ「こどもスイッチ!」等の番組でも紹介されました。



医療安全管理室 集中治療関連領域の教育コース開催

平成29年9月10日（日）一般社団法人集中治療医療安全協議会と医療安全管理室の共催で、Medley Obscure Simulation Affiliated to Intensive Care (MOSAIC) コースが開催されました。【写真】

MOSAICは、集中治療に従事する医療従事者にとって、臨床現場で遭遇する頻度は高くないが、適切な対応を取らなければ患者の予後が著しく悪くなる事案に関する教育を、シミュレーションベースで提供する新しい教育プログラムです。

平成29年2月本学においてパイロットコースを実施し、今回ようやく正式コースを開催することができました。教科書で取り上げられることが多くはない「重症患者の院内搬送」、「エコーを用いた重症患者の選別」、「危機的大出血」、「手術火災」、「悪いニュースの伝え方」、「災害時の集中治療室運営」などの6項目のトピックについて、



で、効率良く学習する機会を提供することができました。

医療の質の向上と患者安全の実現のために、医療安全管理室では定期的な講習会の開催を予定しております。

Advanced Disaster Life Support (ADLS) 開催

平成29年9月23日（土・祝）・24日（日）の2日間にわたり、災害医療研究センター主催、愛知県医師会後援で、アメリカにおける標準化災害医療教育プログラムであるAdvanced Disaster Life Support (ADLS) コースが開催されました。【写真】

これは昨年9月に開催したBasic Disaster Life Support (BDLS) の知識をもとに、災害対応の実技訓練を中心としたトレーニングコースになります。

今回、本学職員を含む18人が放射線・生物・化学災害、爆発事故の現場における災害対応訓練を修了して認定証を手に入れました。2020年の東京オリンピックに向けて、わが国でもテロが発生する危険性が増大しており、適切な対応を行うことで一般市民を救助・救命することは医療従事者にとって重大な責務となります。



本センターでは、今後も災害医療に関する講習会の開催を予定しておりますので、皆さまの受講をお待ちしています。

事態対処医療講習会開催

平成29年9月30日（土）・10月1日（日）の2日間にわたり、一般社団法人TACMEDAと災害医療研究センターの共催で、事態対処医療の初級コースが開催されました。【写真】

事態対処医療とは、テロリズムや野戦現場で発生する負傷者の外傷救護に特化したトレーニングコースです。

本コースは、元米国陸軍医師でありイリノイ大学教授であるWipfler教授が確立したものであり、2015年からわが国でも同様の内容で開催されています。愛知県警の警察官も参加して、電光石火のスピードで傷病者の救命処置を実施可能になるために、あらゆるシチュエーションを想定して訓練が行われました。受講生は、止血帯の使用だけでなく、四肢や銃火器を用いた救命止血、危険な状況での気道確保に関する技術を修得することができました。



凶悪事件やテロが発生した場合に、1人でも多くの命を救命するために、本センターでは、今後も事態対処医療に関する講習会を開催していく予定です。

新規採用事務職員向け半年フォロー研修実施

SD(スタッフディベロップメント)の取り組みとして、平成29年9月15日(金)大学本館711特別講義室において、新規採用職員を対象に配属後半年を一つの区切りとしたフォロー研修が実施されました。【写真】

初めに、半年間の振り返りワークとして、職員自身の半年間のモチベーション曲線を描きました。モチベーション変化の分析とグループ内での共有により、半年間の自己内省と今後のモチベーション向上のために必要な要素を客観的に知ることができました。続いて、働く中で何に重きを置いているのかを「ライフスタイル」や「社会的評価」などの14の労働価値を順位付けることで整理し、各々が働く意義を再認識しました。また、PEST分析によって、本学を取り巻く社会環境の分析を行うとともに、文部科学省の大学教育部会議事録等を参考に、近年大きく変わりつつある「事務職員の在り方」について



学ぶことで、目指すべき人材像を明確にしていきました。

本学では、大学の将来を担う人材を育成するためのSDに今後も継続的に取り組んでいく予定です。

文章力向上セミナー開催

SD(スタッフディベロップメント)の取り組みとして、平成29年10月18日(水)午後5時30分から大学本館301講義室において、公益法人日本漢字能力検定協会から講師の方をお招きし、文章力向上セミナーが開催され、63名の職員が参加しました。【写真】

初めに、現代社会においては、業務の中でも文章を通じたコミュニケーションの機会が増していることから、文章力を高めることが業務の質と効率を上げることに繋がるとの説明がありました。続いて、ペアワークを交えながら、論理的な文章を書くために必要なステップを教えて頂きました。また、文章の校正や正確に伝えるための文章作成の練習は、各々の文章力を知る機会となるとともに、文章力向上のためには、継続的な訓練が必要であることを学びました。

セミナー実施後のアンケートでは、「セミナーの内容を今後活用できそうか」の問いに対し、「はい」と答えた人が全体の91.8%、「文章力向上のための教育を取り入れてほしいか」の問いに対しては、「とてもそう思う」、「ややそう思う」と答えた人が全体の96.7%という結果



になりました。受講者からは「論理的な文章を書くための具体的な行動を知ることができました。」「業務で文章を書くため、とても勉強になりました。時間を作り、学んでいきたいと思います。」などの感想がありました。

今後も、論理的な文章力向上のための取り組みを続けていく予定です。

総合学術情報センター 英語論文執筆セミナー

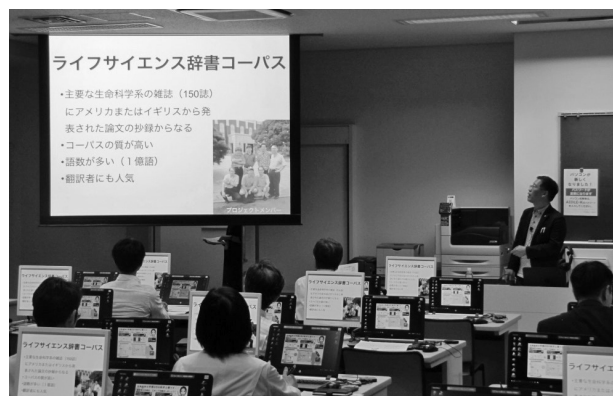
総合学術情報センターでは、平成29年9月21日（木）マルチメディア教室において、国際交流センターとの共催で「英語論文執筆セミナー」を開催しました。【写真】

講師には、広島大学ライティングセンターの河本健特任教授をお招きし、英語論文執筆におけるライフサイエンス辞書コーパスの活用法について講演が行われ、教員を中心に19名が参加しました。

セミナーでは、論文執筆には英単語、英文、パラグラフ、論文、定型表現の五つの型を身に付ける必要があり、ライフサイエンス辞書コーパスを利用し、それらの型の表現の利用頻度を調べることで論文執筆時に使用できるかどうかを判断できると説明がありました。

講義内には演習があり、動詞と前置詞等の組み合わせ、加算名詞・不可算名詞の区別や定冠詞について集計値機能等のオプション機能を使いながら検索を行いました。

質疑応答では、Kidneyとkidneysといった単数形と複



数形の使い分け、名詞と動詞が同じスペルの場合の見分け方や検索結果の抽出に関する質問等がありました。

今後も、英語論文執筆に関する講習会を定期的に開催する予定です。

災害医療研究センター 中川隆教授 平成29年防災功労者 内閣総理大臣表彰受賞

災害医療研究センターの中川隆教授が、平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。【写真】

防災功労者内閣総理大臣表彰とは、「防災の日」及び「防災週間」に基づき、災害時における人命救助や被害拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及又は防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる個人又は団体を対象として表彰するもので、今年度は全国から7個人・38団体が表彰を受けました。

中川教授は、名古屋市・尾張東部地区を基盤に愛知県全域に及ぶ救急・災害医療体制の確立に向け、愛知県救急業務高度化推進協議会において副会長の要職を務め、県全域のメディカルコントロール体制構築に尽力しました。大規模災害における活動としては、平成7年1月の阪神・淡路大震災を始め、平成23年3月の東日本大震災では統括DMAT（災害派遣医療チーム）として、発災翌日からドクターヘリで被災地へ入り、全国から参集した多数のドクターヘリ運用の陣頭指揮を執り、円滑な航空機搬送による医療救護活動を行いました。更に、平成28年4月の熊本地震においても、愛知県災害医療コーディネーターとして、DMATの被災地派遣の指揮や被災地での医療支援活動に従事しました。その他、平成22年日本APECや平成28年G7伊勢志摩サミットなどの国際会議における医療体制の整備に貢献しました。



このように長年にわたる防災体制の整備への取り組みが高く評価され、今回の受賞となりました。

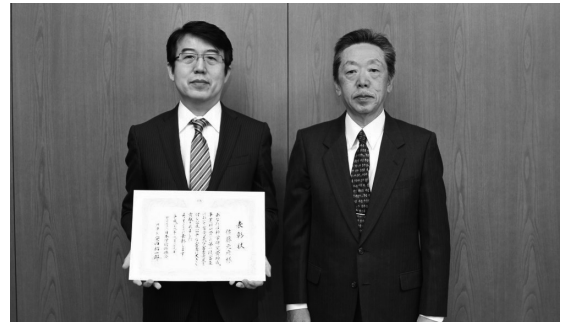
表彰を受けた中川教授から「この度の受賞は、私にとって大きな喜びであると同時に、更に大きな意味が込められていると感じます。近い将来起こるとされる南海トラフ地震では、愛知県は他県とは比較にならないほど甚大な被害が想定されています。愛知医科大学は基幹災害拠点病院の指定を受けており、その果たすべき役割をいま一度振り返り、地域及び県、そして隣県をも包含する盤石な災害医療体制構築のため、本学がリーダーシップを発揮して欲しいという国からの熱いエールと捉えています。」との感想がありました。

生理学講座 佐藤元彦教授 科学研究費助成事業（科研費）審査委員表彰受賞

医学部生理学講座の佐藤元彦教授が、独立行政法人日本学術振興会から科学研究費助成事業（科研費）審査委員表彰を受賞しました。

この表彰は、独立行政法人日本学術振興会が科学研究費助成事業（科研費）の審査の質を高めることを目的に、有意義な審査意見を付した第1段審査（書面審査）委員に対し贈られるもので、今年度は約5,300名の第1段審査（書面審査）委員の中から255名が選考され、本学では昨年度に続いて2度目の受賞となりました。

表彰を受けた佐藤教授から「担当した分野では、生理学関連全領域の提案を評価させて頂きました。そのような中で審査意見を評価頂いたのは大変光栄に思います。



佐藤教授と佐藤学長

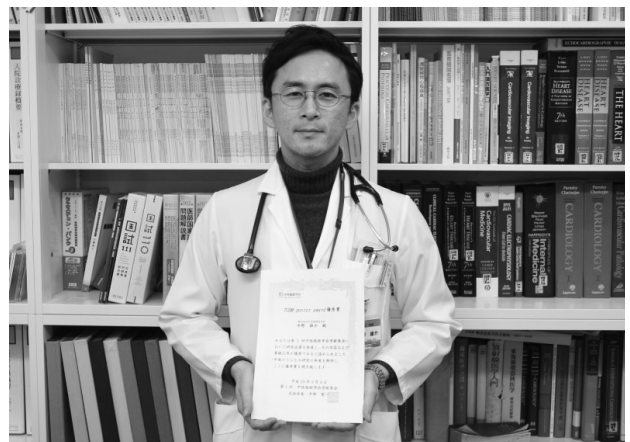
今後も本学の研究活動に貢献できるよう努力して参りたいと存じます。」との感想がありました。

循環器内科 中野雄介助教 一般社団法人中性脂肪学会（Society for Triglyceride Biology and Medicine） TGBM Poster Award 優秀賞

循環器内科の中野雄介助教が、平成29年9月9日（土）ホテル阪急エキスポパークで開催された第1回中性脂肪学会学術集会（TGBM: Society for Triglyceride Biology and Medicine）において、TGBM Poster Award 優秀賞を受賞しました。【写真】

同賞は、同会で発表されたポスター発表演題の中から、中野助教が発表した「急性冠症候群に潜在するTGCVの探索およびそのIVUS像の考察」が学術的に高く評価されたものです。

表彰を受けた中野助教から「新規疾患概念である中性脂肪による動脈硬化に対し、血管内画像による特徴を考察するという新規性の高い内容において、天野哲也教授のご指導の下、栄誉ある賞を頂き大変光栄に思います。臨床的有用性に結びつくよう、更なる検討を重ねていきたいと思っています。」との感想がありました。



眼科 片岡卓也講師 2017 Ophthalmic Surgery Film Award New Concept 部門 Gold Award 受賞

眼科の片岡卓也講師が、平成29年10月13日（金）東京国際フォーラムで開催された第71回日本臨床眼科学会において、2017 Ophthalmic Surgery Film Award New Concept 部門 Gold Awardを受賞しました。

同賞は、片岡講師が発表した「外傷性毛様体解離の閉鎖手術『毛様溝バックリング法』」の手術の新規性と有用性が高く認められ、今後の眼科手術の発展に貢献したことが評価されたものです。

表彰を受けた片岡講師から「名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。瓶井資弘教授を始め、皆さまのご指導の賜物と感謝しております。今後も『具眼考究』の学是の下で、一層精進して参ります。」との感想がありました。



授賞式後の写真撮影会にて

大学院医学研究科学生表彰（優秀論文賞）

大学院医学研究科では、大学院学生の研究活動の活性化を図るため、学生が顕著な業績を挙げた場合等の表彰制度を設けています。

この度、公衆衛生学講座の菊地正悟教授から、平成28年度早期修了した澤田孝之氏（基礎医学系公衆衛生学専攻）の学位論文について推薦があり、医学研究科委員会運営委員会で選考した結果、優秀論文賞として初めて表彰されることとなり、平成29年8月14日（月）に佐藤啓二学長から表彰状が授与され、称揚と更なる期待の言葉を掛けられました。

澤田氏は、コホート研究のデータ分析において、これまでの知見に基づいて何が問題になっているか適切に把握し、その上で分析を行って意義のある結果を得ました。この過程に非常に意欲的に取り組み、3年間で論文を完成させ、非常に評価の高い雑誌（Scientific Reports）に掲載されました。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。



表彰式での記念撮影
後列 佐藤運営委員長、佐藤学長、岡田医学研究科長
前列 澤田氏、菊地教授

先制・統合医療包括センター 福沢嘉孝教授 伊藤保徳瀬戸市長と対談

平成29年8月9日（水）瀬戸市役所において、本院先制・統合医療包括センターの福沢嘉孝教授が伊藤保徳瀬戸市長を訪問し、対談を行いました。

同センターは、平成27年5月に全国の大学病院で初となる遺伝子検査の専門外来として開設され、未病の段階からのリスク判断を行い、病気になるように早期から予防する検査を実施しています。

今回の対談では、福沢教授から同センターのマーナ（mRNA）健康外来について紹介されるなど、活発な意見交換が行われました。



対談する伊藤市長（左）と福沢教授（右）

医学教育センター 青木瑠里講師 ワシントン大学・Harborview Medical Center Paramedic Training Programにおいて講演

ワシントン大学（シアトル）・Harborview Medical Centerでは、Paramedic Training Program（救急隊員養成プログラム）として毎年10回にわたって勉強会「Tuesday Series」が開催されています。

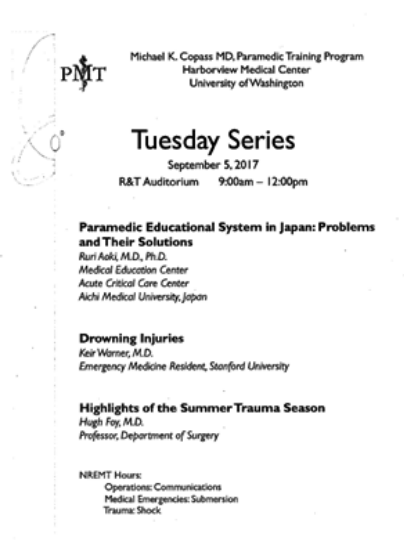
今回、平成29年9月5日（火）に開催された同会に、医学教育センターの青木瑠里講師が講師として招聘され、「*Paramedic Education System in Japan: Problems, Solutions and Paramedic's Perception*」と題して、日本における病院前救急医療の歴史を始め、救命救急士の誕生までの経緯や救命救急士法設立から現在までの変遷、救命救急士にかかる多くのストレスの現状などについて、現地の救急隊員100名を対象に1コマの講演を行いました。

青木講師は、2013年に約2か月間の海外研修で同プログラムを受講し、日本へ帰国後は雑誌「プレホスピタルケア」でその詳細の報告を行いました。その後、2016年に再度渡米した際に、プログラムの責任者である方々とシアトルでのParamedic Training Programと日本の現状を比較して出てきた問題点についてディスカッションする機会を経て、今回の講師としての依頼が届きました。

講演後には、「シアトル研修に参加した人が帰国後どのように変わったか。」「日本国内でのシステムの違いはあるのか。」「心肺停止時に対応する救急のメンバーは何人いるのか。」「12誘導心電図はいつから取れるようになり、どのように対応しているか。」などの多くの質問が寄せられました。

青木講師の講演は、1万人を超えるユーザーが視聴できる「EMS Online」にも動画放映されています。

青木講師から「このような機会に巡り会えたことに感謝し、今後も尽力していきたい所存です。」との感想が寄せられました。



講演パンフレット



講演する青木講師

第21回へき地・離島救急医療学会岩手において 医学部学生が学会発表

平成29年10月7日（土）岩手県盛岡市にあるホテルメトロポリタン盛岡で開催された「第21回へき地・離島救急医療学会」において、本学医学部学生4名がシンポジウムで発表しました。昨年の同学会において本学医学部学生（2名）が「へき地医療の在り方について学ぶ－学生の立場から－」を発表したことをきっかけに、本年は地域枠学生を対象としたシンポジウムの開催が決定されました。

今回は、医学部地域枠学生2学年次生の安藤葉奈さん及び林万紘さんが「女性医師の働き方・想いを知り、自身のこれからを考える」と題し、3学年次生の原公彦さん及び1学年次生の梶浦知尚さんが「地域医療に求められているドクターヘリコプターの意義を学ぶ」と題して、シンポジウム「地域枠学生・医師の縦のつながりと卒前地域医療研修」において発表しました。

発表に当たり、女性医師の働き方については、本院で実際に働く女性医師にアンケートを行い、更に、直接面談をして聞き取り調査を行いました。その中で出た意見として「学生時代にしておくと良かったこととは？」という質問に対し「結婚・出産」と返答があったことに衝撃を受けたことや、キャリアアップと家庭形成の両立の難しさを感じ、悩んでいる現状などが紹介されました。学会に参加する9割以上は男性であり、会場からは驚きの反応がありました。

また、ドクターヘリの意義については、愛知県でのヘリコプター事情を説明し、へき地地域医療において、ヘリコプターの有効活用方法を地域住民や医療関係者が知るべきではないかと提言し、更に、将来地域医療に携わる地域枠学生が知るべき知識であることが紹介されました。会場には、全国各地でドクターヘリに従事・関連する医師が多く参加されており、各地域における活用方法が少しずつ異なるなどのご意見を頂きました。

今回学会に参加した安藤さんから「医師という職業は、日々進化していく医療現場から一度離れてしまうと、復帰には相当勇気があることである。その実情はやはり悩んでいることが垣間見えて、考えを早いうちから巡らせることが必要であると感じた・勉強した。」、林さんから「私は今回の学会が初参加だったので、まず会場に入った時、参加者がほぼ男性であることに驚いた。事前調査であった『未だ学会は男性ばかり、異常だ。』という意見の通りだと実感した。また、発表後、数名の医師から『女性医師は頑張っている。労働環境に関しては女性医師のみの問題ではなく、医療界全体の問題ではないか、被害者意識は持たないでほしい。』など、貴重なご意見を伺うことができた。」との感想がありました。原さんからは「これまでの学会発表では同学年の仲間と準備を行っていたが、今回は後輩と二人で準備を進める

中、先輩として引っ張る任務もあったため、プレッシャーを常に感じながらの準備であった。これまでの学会発表の中で一番精神的には厳しかった発表であったが、その分、大きく成長できた発表であると感じた。」、梶浦さんから「『ドクターヘリ』についての考え方の差が各県において大きいことを示しているように感じたので、今後調査してみたいと思っています。」との感想がありました。



左から
林さん、安藤さん

左から
梶浦さん、原さん



青木講師(中央)と
学会会場にて

前回の学会に引き続き、学生発表の機会づくりに尽力し、また、学生を引率・指導に当たった医学教育センターの青木瑠里講師から「このような学会に学生が参加・発表することは、『経験という学びに勝るものはない。』と感じます。今後も積極性のある学生のバックアップをさせて頂ければと思います。今回も、大変有意義な時間を学生4名から頂きましたことに感謝いたします。」との感想がありました。

学生らは、各地域で活躍される方々との交流を通して、全国のへき地医療の現状を知り、学びの多い機会になりました。

学生らの参加に当たり、多大なるご理解ご協力を頂きました学会関係者の皆さんに感謝申し上げるとともに、本学医学部では地域医療を担う人材の育成にこれからも努めて参ります。

第2回主催公演事業～医大祭とコラボレーション開催～

平成29年11月4日（土）・5日（日）の2日間にわたり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会主催の平成29年度第2回公演事業が、第44回愛知医科大学医大祭と合同で開催されました。

ステージ司会には、第1回に引き続き大変好評だったエフエム愛知パーソナリティー他、多数のテレビ・ラジオにレギュラー出演中の山口千景さんを招いて、進行とともに、イベント内容や医大祭の紹介などを務めて頂きました。

初日には、中央棟2階において、プロのヴァイオリニストの高橋誠さんとピアニストの西濱由有さんにより、軽妙なトークを交え、素晴らしい音色と迫力のある演奏が行われました。

続いて、元SKE48からシンガーソングライターとして再出発した佐藤実絵子さんによるライブ&トークが行われ、観客を巻き込んで、元気いっぱい明るく楽しいステージを繰り広げられました。

体験教室では、中央棟2階において、初の試みとなる似顔絵プレゼントコーナーが開催されました。先着50名に配布した整理券は、受付開始から10分程で無くなる盛況ぶりです。似顔絵を描いてもらった方々は、「10分程で描けるなんてすごい。」「とても似てる。」「かわいく描いてもらえた。」「こんな機会は滅多にないので、とて

も嬉しい。」と数多くの喜びの声を頂きました。

二日目は、中央棟1階において、ソリストとして幅広く活躍中の西みほさんによるコンサートが行われ、透き通るような歌声に、観客の皆さんは耳を傾け、真剣に聞き入っていました。

続いて、クラシカルマジックユニットのFEELのお二人による「マジックショー」が開催され、観客を交えたユーモラスなマジックから、鳩やトランプ、リング等を使ったマジック、そしてクライマックスでは大掛かりな装置を使った人体交換が披露され、終始観客を喜ばせ感動させるとともに、魅せるショーが繰り広げられました。

また、昨年に引き続き体験教室では、アロマによるハンドマッサージやハーバリウム教室を始め、お茶の美味しい淹れ方教室が開催され、多くの参加者で賑わいました。

その他にも、特設コーナーでは、恒例となったJAあいち尾東さんの全面協力を得て産直（野菜）販売やパンの販売が行われ大変好評でした。

今年も医大祭と合同開催ということもあり、医学部、看護学部学生の実行委員の活躍により、学生によるコンサート等も交えながら行い、大変賑やかな2日間となりました。



学生サークルHIAMUによる合唱



似顔絵プレゼント



アンサンブル同好会によるコンサート



バロックダンス

平成29年度ハラスメント防止に関する教職員研修会開催 ～大学・病院におけるハラスメントの実例から学ぶ～

ハラスメントの防止に係る啓発活動の一環として、平成29年9月15日（金）午後5時30分から大学本館201講義室において、公益財団法人21世紀職業財団の岩月律子氏を講師にお迎えし、ハラスメント防止に関する教職員研修会が開催され、40名の参加がありました。【写真】

今年度は、従来の講演会ではなく、教職員研修会（SD研修）として、ハラスメントの正しい理解を深めるとともに、ハラスメントのない明るい職場環境を作るための参考になることを目的として開催されました。

当日は、講演に先立ち、ハラスメント防止委員会委員長の岡田尚志郎医学部長からハラスメント防止の重要性についてあいさつがありました。講演では、座学に加え、実例に基づくケーススタディとして、異なる職種同士がディスカッションして答えを考えるグループワークが多く取り入れられ、それぞれの立場で考え、意見交換することにより、充実したグループワークが行われました。

また、研修会後のアンケートにおいても、研修会の評



価について約90%の方が「大変良かった」、「良かった」を選択しており、「ケーススタディが良かった。」、「もっと参加者を増やすべき。」などの意見があり、今後も参加者増員に向けての対策を検討していきたいと思えます。



～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組みなどについて紹介いたします。

看護学部 基礎看護学領域

基礎看護学領域の教員は8名です。

基礎看護学では、看護学と看護学を支える周辺理論、看護とは何か、看護独自の機能とは何かなどについての基礎を教えています。主に1・2学年次生を対象として、「看護基礎論」、「看護学原論」、「基礎看護技術」、「ヘルスアセスメント」、「看護援助論」の講義・演習を行っています。実習は、学生が初めて臨地に赴く「看護入門実習」、初めて患者さんと関わる「基礎看護実習」、「看護援助実習」を担当しています。

これらの科目を通して、学生は人間を総合的に理解する方法や科学的根拠に基づいた技術、それらの技術を安全・安楽・自立に基づいて提供する方法を学びます。4学年次生の「総合看護実習」で出会う学生たちの成長には目を見張るものがあります。この成長の基本となる土台作りをサポートするのが私たちの務めです。

研究活動としては、医学部との共同によるフィジカルアセスメントに繋がる解剖学実習モデルの構築、看護職



者の労働上の危険と予防行動の実態調査を基に研修会による啓発活動を行っています。また、多職種と協働するために必要な能力や教育方法に関する研究、感染予防や感染対策に焦点を当てた研究にも取り組んでいます。

学 術 振 興

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



古家 由理

学位授与番号 甲第498号

学位授与年月日 平成29年7月13日

論文題目：「Impact of the pneumococcal conjugate vaccine on serotype distribution of adult non-invasive *Streptococcus pneumoniae* isolates in Tokai region, Japan, 2008-2016 (2008～2016年に東海地方で分離された成人非侵襲性肺炎球菌感染症患者由来肺炎球菌の血清型分布における肺炎球菌結合型ワクチンの影響)」



齋藤 拓実

学位授与番号 甲第499号

学位授与年月日 平成29年9月14日

論文題目：「Lidocaine prevents oxidative stress-induced endothelial dysfunction of the systemic artery in rats with intermittent periodontal inflammation (リドカイン投与は間欠的歯周炎症ラットの酸化ストレス誘発血管内皮機能障害を阻止する)」



森田 奈央子

学位授与番号 甲第500号

学位授与年月日 平成29年9月30日

論文題目：「C4b binding protein negatively regulates TLR4/MD-2 response but not TLR3 response (C4BPはTLR4/MD-2応答を抑制するが、TLR3応答は抑制しない)」



渡辺 理恵

学位授与番号 甲第501号

学位授与年月日 平成29年10月26日

論文題目：「Second-look US Using Real-time Virtual Sonography, a Coordinated Breast US and MRI System with Electromagnetic Tracking Technology: A Pilot Study (電磁気追尾システムによる乳房USとMRIを同期するReal-time virtual sonographyを使用したsecond-look USについて)」

◆大学院看護学研究科



中野 健太

学位授与番号 第99号

学位授与年月日 平成29年9月29日

論文題目：「精神科に入院経験のある成人期発達障害者の親の体験」

研究助成等採択者

○公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団

平成29年度研究活動助成金

- 氏名 西山毅（公衆衛生学講座・准教授（特任））
- 研究題目 神経症傾向および抑うつ・不安が寿命に影響を与えるメカニズムの同定
- 助成金額 300,000円

○公益財団法人武田科学振興財団

2017年度医学系研究奨励（基礎）

- 氏名 加塩麻紀子（生理学講座・講師）
- 研究題目 体温センサー TRPチャンネルによる概日リズム調節機構の探索
- 助成金額 2,000,000円

○公益信託丸茂救急医学研究振興基金助成金

- 氏名 児玉貴光（医療安全管理室・准教授）
- 研究題目 重症救急患者の院内搬送における有害事象に関する研究
- 助成金額 300,000円

○公益財団法人日東学術振興財団

第34回（平成29年度）研究助成

- 氏名 加塩麻紀子（生理学講座・講師）
- 研究題目 体温センサー TRPM2チャンネルと生体内エネルギー代謝の機能的関連を明らかにする
- 助成金額 1,000,000円

○公益財団法人日東学術振興財団

第34回（平成29年度）研究助成

- 氏名 山村彩（生理学講座・助教）
- 研究題目 肺動脈内皮バリア機能の破綻による肺高血圧症の発症機構の解明
- 助成金額 1,000,000円

○公益財団法人日東学術振興財団

第34回（平成29年度）海外派遣助成

- 氏名 坂本和賢（肝胆膵内科・助教（専修医））
- 海外派遣先 2017 International HBV Meeting（米国）
- 助成金額 300,000円

○公益財団法人中部科学技術センター

平成29年度学術・みらい助成～中部科学技術センター学術奨励研究助成事業～

- 氏名 福重香（解剖学講座・助教）
- 研究題目 ウルトラファインバブル及びリポソーム技術を用いたメディカルガス含有外用薬剤の開発
- 助成金額 300,000円

○公益財団法人大幸財団

平成29年度学会等開催助成

- 氏名 天野哲也（内科学講座（循環器内科）・教授）
- 学会名 日本循環器学会第150回東海・第135回北陸合同地方会
- 助成金額 160,000円

○公益財団法人大幸財団

平成29年度学会等開催助成

- 氏名 山口悦郎（内科学講座（呼吸器・アレルギー内科）・教授）
- 学会名 第37回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会
- 助成金額 100,000円

○公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団

平成29年度調査研究助成

- 氏名 西山毅（公衆衛生学講座・准教授（特任））
- 研究題目 ゲノムワイド関連研究およびそのメタアナリシスによる睡眠時間制御メカニズムの解明
- 助成金額 1,000,000円

○公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団

平成29年度調査研究助成

- 氏名 姫野龍仁（内科学講座（糖尿病内科）・助教）
- 研究題目 糖尿病神経障害におけるNotchシグナルとインスリンシグナルの制御関連の及ぼす影響の検討
- 助成金額 1,000,000円

○株式会社山田養蜂場

みつばち研究助成基金2017年度研究助成

- 氏名 高見昭良（内科学講座（血液内科）・教授）
- 研究題目 メリンジョレスベラトロールによるがん・感染症予防
- 助成金額 2,000,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第17回大学生・高校生のためのスポーツ医学セミナー	平成29年 8月19日(土)	岩堀 裕介
・第20回日本臨床腸内微生物学会総会・学術集会	平成29年 8月26日(土)	三嶋 廣繁
・第11回日本病理学会中部支部 病理夏の学校2017	平成29年 8月26日(土)・27日(日)	都築 豊徳
・国際自律神経学会2017 (ISAN2017 Nagoya)	平成29年 8月30日(水)～9月2日(土)	岩瀬 敏
・第27回愛知眼科フォーラム	平成29年 9月3日(日)	瓶井 資弘
・第281回日本皮膚科学会東海地方会	平成29年 9月3日(日)	渡辺 大輔
・第11回東海地区小児神経セミナー	平成29年 9月9日(土)	奥村 彰久
・第39回日本神経組織培養研究会 (39th JANTC)	平成29年10月7日(土)・8日(日)	武内 恒成
・第69回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会	平成29年10月14日(土)	高見 昭良
・日本統合医療学会第3回愛知県支部例会	平成29年10月22日(日)	福沢 嘉孝

第17回大学生・高校生のためのスポーツ医学セミナー

整形外科学講座・教授(特任) 岩堀 裕介

平成29年8月19日(土)大学本館たちばなホールにおいて、第17回大学生・高校生のためのスポーツ医学セミナーを整形外科学講座が開催させて頂きました。本セミナーは、一般社団法人日本整形外科スポーツ医学会が主催して、スポーツ医学の正しい知識を広く普及させるための社会啓発活動として、毎年夏に開催している一般者向けのセミナーです。今年も、東海四県の高校生・大学生アスリート及びその指導者、アスリートに関係する医師・理学療法士・トレーナー、その他スポーツ医学に関心のある方を対象に参加者を募り、278名もの多くのご参加を頂き、盛会に終えることができました。

今年のセミナーのメインテーマは「試合本番にパフォーマンスを発揮するために」と題して、アスリートとの関わりの深い6名の講師をお招きし、栄養学について虎石真弥先生(帝京大学スポーツ医科学センター・助教)、メンタルトレーニングについて荒木香織先生(園田学園女子大学人間健康学部・教授)、ドーピングについて近



藤精二先生(至学館短期大学体育学科・教授)、コンディショニング方法について飯田博己先生(愛知医科大学病院リハビリテーション部)、女性医学について能瀬さやか先生(東京大学医学部附属病院女性診療科・産科)、最後にアスリートの立場から室伏由佳先生(株式会社 attainment代表取締役)から貴重なお話を頂きました。

本セミナーの開催に当たり、ご後援・ご協賛・ご協力頂きました各団体、企業様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

第20回日本臨床腸内微生物学会総会・学術集会

感染症科・教授 三嶋 廣繁

平成29年8月26日(土)岐阜市文化産業交流センターじゅうろくプラザにおいて、第20回日本腸内微生物学会総会・学術集会を開催しました。

学会では、特別講演3題、教育講演5題、シンポジウム1テーマ、ランチョンセミナー、一般演題に加えて、日本腸内微生物学会第20回記念企画も行いました。最近注目されている腸内微生物に関して、感染症という側面のみならず、ヒト各種疾患との関わりについて現状を把

握し、新たな研究課題の抽出にも貢献できたものと考えています。

また、本学会初の試みとして、一般演題は、口演に加えてポスターもご用意頂き、発表内容に関して熱心に深い討論を行うことができたこと確信しております。

学会運営に当たっては、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からもご援助頂きました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第11回日本病理学会中部支部 病理夏の学校2017

病理診断科・教授 都築 豊徳

平成29年8月26(土)・27(日)篠島観光ホテル大角において、第11回日本病理学会中部支部病理夏の学校2017を開催しました。この会は、医学生・初期研修医を主な対象とし、病理学及び病理医について知り、興味を持ってもらうことを目的としております。

本会では、CPCを疑似体験してもらうことに始まり、本学の吉田眞理教授(加齢医科学研究所)、稲熊眞悟講師(病理学講座)を始めとする病理の各分野でご活躍の方々に講演して頂きました。刺激的な講演が多く、若手研究者の好奇心を掻き立てる内容であったと思います。

夜は篠島の海の幸を囲んでの宴会、懇親会を通じて、医学生・初期研修医と病理医の親交を深め、有意義な時間を過ごすことができました。



中部支部の会でしたが、北は秋田、南は高知から総勢73名の方々に参加して頂き、大変実りある会となりました。

末筆となりましたが、この会を開催するに当たり、ご協力頂きました方々に深く感謝申し上げます。

国際自律神経学会2017 (ISAN2017 Nagoya)

生理学講座・教授(特任) 岩瀬 敏

International Society for Autonomic Neuroscience (ISAN) は、1995年に第1回が開催された割と新しい学会ですが、その前身は1950年に設立された国際自律神経学会International Society of Neurovegetative Researchです。以前は、臨床自律神経学が中心でしたが、現在は自律神経に関する神経科学と臨床自律神経学の合同大会となっています。

本会は、第5回を京都府で開催後、第6回はシドニー、第7回はブラジルのブジオス、第8回のドイツのギーセンに続いて、名古屋が開催地として立候補し、第9回のイタリアのストレーザにおける総会で正式に名古屋開催が決定しました。

この間、渉外担当理事として名古屋開催を企画し、またSecretary Generalとして、会長を日本自律神経学会理事長の黒岩義之先生にお願いし、その結果、ISAN2017を日本自律神経学会による主催として、平成29年8月30日(水)～9月2日(土)ウイंकあいちに

において、第70回日本自律神経学会総会(会長:黒澤美枝子教授(国際医療福祉大学)、副会長:米田政志教授(愛知医科大学))と合同で開催することができました。

世界10か国以上(米、加、英、独、仏、伊、豪、印、台湾、韓国、イスラエル、チリ、ニュージーランド、チェコ、そして日本)の国から300余名の参加者を得て、25のシンポジウムが企画され、四つの基調講演及び特別講演が開催されました。名古屋を楽しんでもらうために、名古屋城と本丸御殿のガイドツアー、馬籠・妻籠ハイキング、高山・白川郷や伊勢志摩のポストコングレスツアーも計画し、31日にGala Dinnerを徳川園で開催しました。また、次回は2019年にサンフランシスコで行われる予定です。

開催に当たりまして、本学及び学会関係者の皆さまに多大なるご協力、ご支援を賜りましたことを関係各位に深謝致します。

第27回愛知眼科フォーラム

眼科学講座・教授 瓶井 資弘

愛知眼科フォーラムは、本学眼科学講座が主催し、一般眼科医に公開している眼科全般の学会です。

毎年1回の開催を慣行としており、本年度は第27回を迎え、平成29年9月3日(日)興和株式会社本社ビル(名古屋市中区栄)において開催しました。

今年度は、特別講演が2題、一般演題が本学医学部眼科学講座と関連病院から昨年を上回る25題の発表があり、いずれも高度な眼科医療、高い水準の研究を示すもので、活発な質疑応答も多数あり93名の参加の中、盛會裡に閉会することができました。

特別講演では、京都大学准教授の池田華子先生、大阪労災病院副院長の恵美和幸先生をお招きして、それぞれ「神経保護治療-網膜中心動脈閉塞症に対する医師主導治療-」と「私のチャレンジ硝子体手術」と題した講演が行われました。



行われました。

参加者は最新の眼科診断法と治療法について多くの知識を深め、意義ある会とすることができました。

最後に、本学会を開催するに際しまして、ご協力頂きました方々に大変感謝申し上げます。

第281回日本皮膚科学会東海地方会

皮膚科学講座・教授 渡辺 大輔

平成29年9月3日(日)ミッドランドホールにおいて、第281回日本皮膚科学会東海地方会を開催しました。

本学会は、日本皮膚科学会に所属する東海三県エリアの皮膚科医が集まる学会で、愛知医科大学を含む6大学(名古屋大、名古屋市立大、藤田保健衛生大、岐阜大、三重大)が交代で当番校として運営を行い、年4回開催されています。

今回の学会には、計252名が参加し、東海地方講習会では国立病院機構鹿兒島医療センター医長の松下茂人先

生から「皮膚悪性腫瘍診療における外科療法の役割～これまでとこれから～」ランチョンセミナーでは、日本大学皮膚科准教授の藤田英樹先生から「乾癬治療における患者ニーズに応じたBiologicsの選択」の講演がありました。また、30題の一般演題が発表され、活発な討論の下盛會に終了いたしました。

最後に、本学会の開催にご支援とご協力を頂いた本学関係者の皆さまに心より御礼を申し上げます。

第11回東海地区小児神経セミナー

小児科学講座・教授 奥村 彰久

平成29年9月9日(土)名古屋市立大学病院中央診療棟3階大ホールにおいて、第11回東海地区小児神経セミナーを開催しました。東海地区小児神経セミナーは、日本小児神経学会東海地方会の行事として年に1回施行しており、小児神経専門医だけでなく、一般の小児科医にも小児神経疾患の知識を普及することを目指しています。

今回は、てんかん・発達障害・小児神経疾患・急性脳症の四つのテーマを取り上げて講義して頂きました。いずれの講義も大変興味深く、分かりやすく解説して頂き、

たくさんの方から質疑があり活発な討論を行うことができました。東海三県を中心に100名以上の参加者があり、小児神経科医以外の参加者も多く、小児神経学の裾野を広げるといった目的をある程度達成したと思います。

本セミナーの開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援を頂いたことに深く感謝いたします。また、開催に当たり、教室関係者・小児神経学会東海地方会事務局関係者にご協力頂き、心よりお礼を申し上げます。

第39回日本神経組織培養研究会 (39th JANTC)

生物学・教授 武内 恒成

平成29年10月7日(土)・8日(日)サンプラザシー
ズンズ(名古屋市名東区)において、第39回日本神経組
織培養研究会(39th JANTC)を開催しました。

本研究会は、これまで東京開催をメインとしつつ韓国
にて、アジア神経病理学会・韓国脳神経科学会等と合同
開催も数回行うなど、代表世話人である国立精神神経医
療研究センター総長の水澤英洋先生を中心に、既に39回
を重ねる由緒ある会です。

本年は、初めての東海圏・名古屋での開催となりまし
た。北は北海道から南は鹿児島まで、20都道府県から
128名の参加者とともに、愛知県内から初参加の方も多
く、また、本学からも三宅養三理事長を始め、数名の先
生方に当日足を運んで頂けるなど、我々の想定を超えて
名古屋開催の意義がありました。

研究会の名称には、組織培養の文言がありますが、今
はこれに限らず神経生理・生化学、解剖を網羅する最新
の神経科学の内容にて、特別講演1題(名古屋大学・祖



父江元先生)、シンポジウム2領域・11題、一般講演16題、
企業セミナー1題の発表がありました。

米国ゴードンカンファレンスのような積極的かつ踏み
込んだ議論ができる会でありたいという会の主旨に沿っ
て、大変にホットな会を開催できたことと思います。

本研究会の開催に当たり、格別なるご支援を頂きました
一般財団法人愛知医科大学愛恵会並びに関係者の皆さま
に心より御礼申し上げます。

第69回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会

内科学講座(血液内科)・教授 高見 昭良

平成29年10月14日(土)大学本館たちばなホールにお
いて、第69回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会を開
催しました。

シンポジウム「新輸血ガイドライン」において、三重
大学の大石晃嗣先生、名古屋大学の松下正先生、私がそ
れぞれ「新・赤血球輸血ガイドライン」、「新・新鮮凍結
血漿輸血ガイドライン」、「新・血小板輸血ガイドライン」
をテーマに発表しました。輸血ガイドラインの大幅改定

直後で注目度も高く、議論も白熱しました。

特別講演には、奈良県立医科大学から松本雅則先生を
お招きし、「血小板減少症における輸血療法」のタイト
ルで講演して頂きました。血栓性血小板減少性紫斑病を
中心に、臨床に直結した最新のお話を伺いました。ま
た、176名に参加頂き、盛会裡に会を閉じました。

本例会の開催に当たり、多大なるご支援を賜りました
本学関係者の皆さまに心よりお礼申し上げます。

日本統合医療学会第3回愛知県支部例会

先制・統合医療包括センター・教授 福沢 嘉孝

平成29年10月22日(日)、マグナリゾートホテル(静
岡県浜松市)において、日本統合医療学会第3回愛知県
支部例会を開催しました。

本プログラム内では、本学会の仁田新一理事長を始め、
特別講演3演題を拝聴しましたが、いずれの講演におい
ても、日本の統合医療における確固たるEBM構築の重
要性が強調されました。

愛知県支部会員及びその執行役員・関係者は第1回例
会の種々講演以来鼓舞され、この2年間EBM構築に向
けて鋭意努力をして参り、その成果を当日開催された第
3回支部例会において発表しました。開催時間は、9時
30分から17時30分までで、参加者も約100名とこの1年
間で約3倍に増加しました。14口演(一般演題6題、特
別講演4題、要望演題4題)はいずれも非常にレベルの
高い内容であり、仁田理事長や連携支部支部長の赤木純
児先生(熊本県支部長)、新垣実先生(沖縄県支部長)



及び参加者の皆さまからも好評を博しました。

来年度についても、第4回支部例会を開催に向けて企
画・検討中であり、会員以外の医療従事者の方々で先制
医療・統合医療にご興味のある方々の参加も歓迎しま
すので、今後ともご支援・ご協力の程何卒宜しくお願
い申し上げます。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

寄附行為の一部改正

学校法人愛知医科大学寄附行為の一部が改正され、本学の資産総額の変更にかかる登記の期限が変更されました。

施行日は平成29年9月28日

「寄附講座等教授及び特命教授に対する名誉教授の称号授与に係る推薦基準について」の裁定

平成29年10月1日付けで「寄附講座等教授及び特命教授に対する名誉教授の称号授与に係る推薦基準について」が理事長裁定され、教授会の構成員である教授とは一部条件が異なる、寄附講座等教授及び特命教授に対する名誉教授の称号授与に係る推薦基準が定められました。

大学院における学位審査手数料及び入学検定料等に関する規程の一部改正

愛知医科大学大学院における学位審査手数料及び入学検定料等に関する規程の一部が改正され、大学推薦による国費外国人留学生（研究留学生）の受入れに係る入学検定料等の減免制度が整備されました。

施行日は平成29年10月1日

安全衛生管理組織規程の一部改正

学校法人愛知医科大学安全衛生管理組織規程の一部が改正され、産業医の数、資格等が改められました。

施行日は平成29年8月1日

保健管理センター規程の一部改正

愛知医科大学保健管理センター規程の一部が改正され、センター長の選考方法が改められました。

施行日は平成29年8月1日

栄養部運営委員会規程の一部改正

愛知医科大学病院栄養部運営委員会規程の一部が改正され、運営委員会の成立要件など必要事項が定められました。

施行日は平成29年8月1日

卒後臨床研修センター規程の一部改正等

愛知医科大学病院卒後臨床研修センターの組織体制等を整備するため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年10月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院卒後臨床研修センター規程
- ・愛知医科大学病院卒後臨床研修センター運営委員会規程

医学部倫理審査実施規程の一部改正等

日本医療研究開発機構（AMED）による倫理審査委員会認定制度の受審に係る認定要件に対応するため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成29年9月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部倫理審査実施規程
- ・愛知医科大学医学部倫理委員会規程
- ・医学研究に関する倫理講習会の取扱いについて

医学部入学試験委員会規程の一部改正

愛知医科大学医学部入学試験委員会規程の一部が改正され、医学部入学試験委員会の委員構成が改められました。

施行日は平成29年9月14日

医学部教員選考規程の一部改正

愛知医科大学医学部教員選考規程の一部が改正され、准教授及び講師の候補者に対し、プレゼンテーションの実施を課すことが可能になりました。

施行日は平成29年9月14日

「SD実施に関する基本方針」の裁定

平成29年9月1日付けで「学校法人愛知医科大学SD実施に関する基本方針」が理事長裁定され、本学におけるSD（スタッフ・ディベロップメント）の基本方針等が定められました。

育児休業等に関する規程の一部改正等

育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律の改正に伴い、次の関係規則が整備され、育児休業等取得に係る対象期間等が改められました。

施行日は、育児休業等に関する規程については平成29年9月12日及び同10月1日、介護休業等に関する規程については平成29年9月12日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学育児休業等に関する規程
- ・学校法人愛知医科大学介護休業等に関する規程